

全CG 79枚

地元で有名なおじさんサボ集団に参加！

親から教わらなかつた性開発によって、  
JCまんこから、JKまんこに成長！

実話に基づいたシリーズ

JCからJKになったから

4人で援助交際はじめました。

あらすじ  
高〇生になったら、  
何をやるのかなあ？

黄前 久美子  
加藤 葉月  
川島 緑輝  
高坂 麗奈

この4人の高〇生が 自分たちの夢や希望として  
絶対やりたいと決めたことは  
援助交際。

そして 地元のおじさんサボ集団に  
参加して、お金を稼ぐことで  
大人の社会に参加する喜びを知っていく。

女子校生4人は 親から教わらなかった  
新しい世界を生きることで、  
体を売る喜びにどんどん目覚めるのであった。

事実に基づいた事件シリーズ。  
4人の高〇生が  
地域で有名なおじさんサボ集団に  
参加した、実際の援助交際の話に  
基づいた作品です。







実話シリーズ JK1年生4人組 有名なおじさんサポ集団に参加の話から

何十回目かのサポート  
麗奈「ふう、ふう、ふう、  
ふう」  
「麗奈ちゃんの股って  
いじればいじるほど、  
ほんとすごくいい匂いが  
するよね？」  
部屋に芳香剤として  
置きたいよ？  
もちろんパンツは脱いで、  
まんぐり返しで  
テーブルに乗ったままで？」

繁殖行為を求めながら、  
避妊行為を繰り返すという  
矛盾した状態に、  
麗奈の頭のなかは、  
壊れてしまった。  
性行為をしないと  
我慢できない  
性依存症になってしまった。

顔は最後までこの行為に  
嫌がったままだが、  
大人に挿入して  
もらうためだったら  
股をいくらかでも開いて、  
放屁でも構わずする、  
それを自分だと思って  
いないのだ。  
麗奈は行為中、奥底で  
股の穴に出し入れされる  
だけで、お金と生活すべてが  
満たされる喜びに震えた。  
天職をみつけたのだ。





実話シリーズ JK1年生4人組 有名なおじまんサポ集団に参加の話から

何十回目かのサポート  
麗奈「ふう、ふう、ふう、ふう、  
あっ、うぐっ、んっ、んっ」  
「麗奈ちゃん、の股って  
いじればいじるほど、  
ほんとすごくいい匂いが  
するよね？」  
部屋に芳香剤として  
置きたいよ？  
もちろんパンツは脱いで、  
まんぐり返しで  
テーブルに乗ったままで♡」

チゅ  
チゅ  
チゅ

繁殖行為を求めながら、  
避妊行為を繰り返すという  
矛盾した状態に、  
麗奈の頭のなかは、快感  
摩擦で壊れてしまった。  
性行為をしないと  
我慢できない  
性依存症になってしまった。

麗奈の顔はいまでも  
この行為に嫌がった  
ままだが、大人に挿入して  
もらうためだったら  
股をいくらかでも開いて、  
放屁でも構わずする、  
そしてそれを自分だと  
思っていない。  
麗奈は行為中、奥底で  
股の穴に出し入れされる  
だけで、お金と生活すべてが  
満たされる喜びに震えた。  
自分の優秀な遺伝子を  
満たすのが快感なのだ。  
唯一の天職をみつけたのだ。



実話シリーズ JK1年生4人組 有名なおじさんサボ集団に参加の話から



何十回目のサポート

麗奈「ん、んぐ、んっ、  
んっ、んっ、ジュブ、ジュブ、  
ジュル、ジュルルル、  
ジュブジュブんぐ、  
んぐ、ジュブ、ジュブ、」

麗奈は嫌悪感を感じ、  
劣等だと見下してる  
男のものでも、  
柔らかい唇でくわえ、  
懸命に舌でカリの  
部分のチンカスを取り、  
唇ストロークを繰り返して、  
あっという間に男性器を

麗奈の匂いがたっぷりする  
唾液をでピカピカに  
してしまうのだった。  
そこには男性のものを  
挿入してほしいと  
懇願する単純な美しくも  
汚れたメスの顔があった。







「おじさんサボ」  
「おじさんサボ」  
「おじさんサボ」  
「おじさんサボ」  
「おじさんサボ」

「おじさんサボ」  
「おじさんサボ」  
「おじさんサボ」  
「おじさんサボ」

「おじさんサボ」  
「おじさんサボ」  
「おじさんサボ」  
「おじさんサボ」





葉月「おじさん、どう、  
気持ちいい？」  
「最近の若い子は  
すごいね。平気で  
おじさんとセックス  
できちゃうからね♡  
おかげでこの  
ロリロリボディも  
しゃぶりたい放題♡」

3万さえ払えば、  
おさない女性とやれる  
世界への興奮に、男性は  
外聞をすてて、夢中に  
しゃぶりついてたい。  
中〇生と見間違えるような  
小さな葉月のボディでも  
陰部は男性器を  
深々と食い込み、

ジュブジュブと音を立てて、  
ぬめりを与えて、  
熱さとヒダヒダの絡みで  
ストロークを受け入れる。  
お金がもらえるという  
喜びに、テンションは高く  
見知らぬ男性との性行為も  
夫婦のように  
迎えるのであった。







葉月「おじさん、どのお  
氣持ちいい？」  
「最近の若い子は  
すごいね。平気で  
おじさんとセックス  
できちゃうからね♡  
おかげでこの  
ロリロリボディも  
しゃぶりたい放題♡」

3万さえ払えれば、  
おさない女性とやれる  
世界への興奮に、男性は  
外聞をすてて、夢中に  
しゃぶりついてたい。  
中〇生と見間違えるような  
小さな葉月のボディでも  
陰部は男性器を  
深々と食い込み、

ジュブジュブと音を立てて、  
ぬめりを与えて、  
熱さとヒダヒダの絡みで  
ストロークを受け入れる。  
お金がもらえるという  
喜びに、テンションは高く  
見知らぬ男性との性行為も  
夫婦のよう  
迎えるのであった。



何回目かのサポート

葉月「んっ、んぐっ、  
んぐっ、んぐっ、  
うぐ、うぐ」  
「あー葉月ちゃんの  
ロリロリフェラ、  
超きもちいーわ♡  
根本まで葉月ちゃんの  
匂いを擦りつけてね♡」

50過ぎの男性は  
葉月の小さな頭を  
両手で押さえつけ、  
興奮でベツトに  
パウンドしながら  
男性器を根本まで  
差し入れてきた。

中〇生のような  
小さい口でありながら、  
プニプニの唇で啜え、  
奥全体を使って  
喉奥でこするように、  
舌をカリの舌に  
チロチロと這わせて  
葉月の匂いを十分に  
含んだ唾液を  
塗りたくるようにし、  
男性器に  
奉仕をしていた。

大人に無作為に  
扱われることが、  
逆に葉月には使命感を  
感じさせ、これも  
サポートを受けるため  
高〇生になった自分が  
こなすべき行為だと  
積極的に考えた。













数回目のサポート  
緑輝「あへ、あへ、あへ、  
あへ」  
「緑ちゃん、すごいねー。  
全部入っちゃったよ。  
親も喜んでくれるよ。  
こんなに立派に  
お金を稼げるように  
なったんから。」

親も頭わるそう  
だからねー。緑ちゃんが  
やっていいること  
ちゃんと説明できるよう  
お金稼げる手伝いをして  
あげるからね♡」

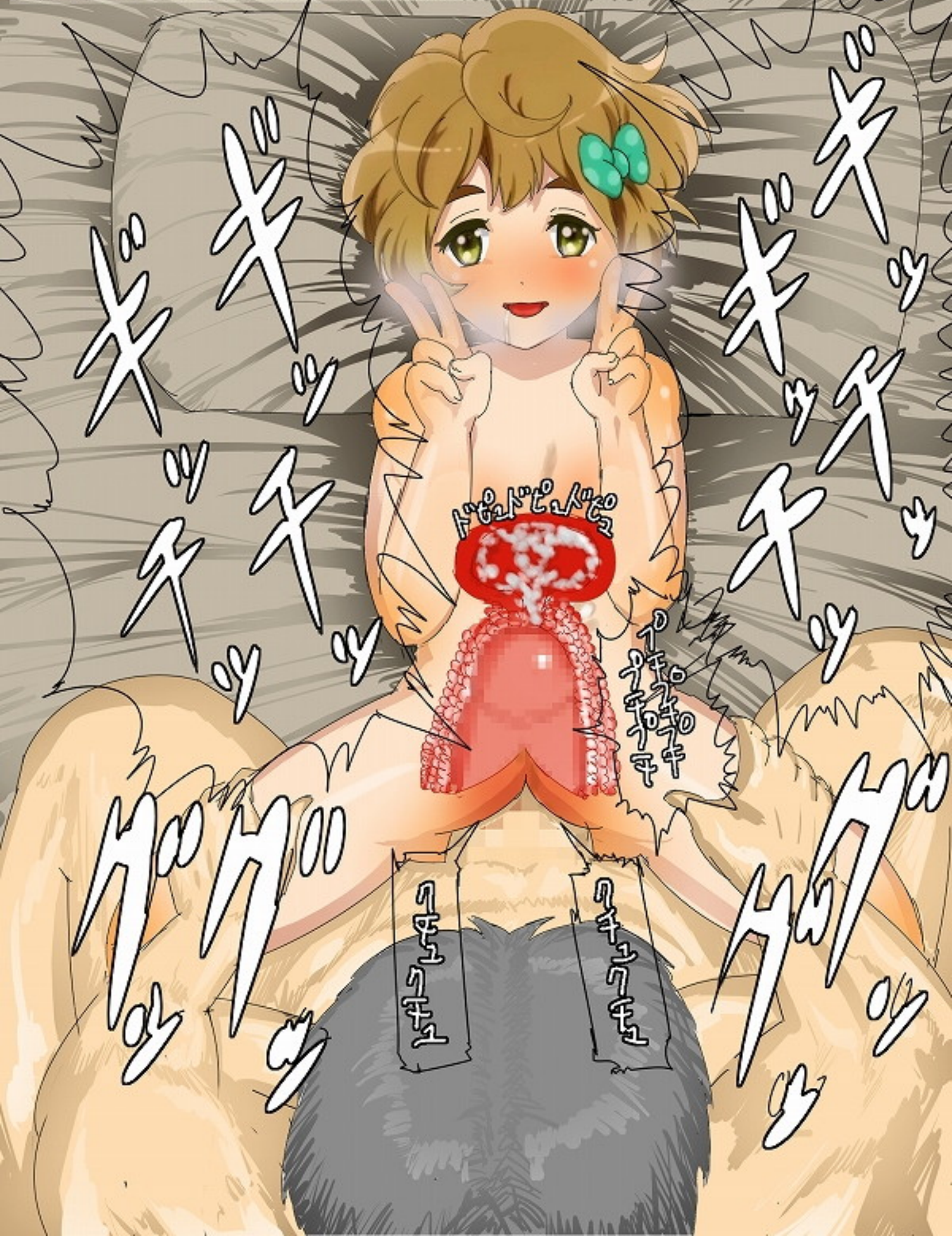
小○生のような  
小さいポディに  
ロリロリぷにマンコに  
大人の男性器が、  
メリメリと  
ぶっ刺されている。  
ギチギチという  
ロリマンコ特有の  
締め付けと高○生の  
ジュブジュブした  
まとわりつく  
愛液のぬめりに

自分が大人として  
扱われる才能が  
この股の出し入れたと  
い発見した。緑輝は  
その喜びによる、  
快感が痛みを凌駕し、  
小さい体の脳に  
与える快感の渦に  
意識が飛んでいた。

男性は興奮をまし、  
更に激しく  
股のあいだに  
自分のものを  
出し入れをした。  
ひどい異物感を  
感じるはずだが、  
緑輝は、自分で  
お金を稼ぐ責任感と  
喜びと自立心を  
生まれてはじめて  
感じており、





















おじさん

おじさん

おじさん

おじさん



久美子「あっ、あっ、あっ、あっ……」  
「くみこちゃん、はじめて  
なんだね♡  
クリトリス、クリクリ  
してあげてるから、頭が  
ぶっとんでるでしょ♡

処女は2時間  
クリトリスいじり続けられ  
潮ふくからね♡  
根本まで、僕のおちんちん  
ぶっ刺してあげるから、  
大人の近道の階段、  
天国まで登らせてあげるね♡」

久美子は地域で有名なおじさんサポ集団に参加をし、はじめての援助交際に挑戦したが、股をいじられて、おじさんのおちんちんぽを突っ込まれるだけで、3万円稼げるといいう事実がそこにあることに驚きを感じ、そしてこれこそが高校に就いてやりたかったことだと改めて確信した。

行為中はカエルのように股を開いて意識を飛ばしていたら、あっという間に終わっていた。アフターピルも貰ったし、股は痛かったけど、中○生の自分にはなかつた不思議な誇りと、満足感が残るものだった。





久美子「あっ、あっ、あっ、あっ……」  
「くみこちゃん、はじめて  
なんだね♡  
クリトリス、クリクリ  
してあげてるから、頭が  
ぶっとんでるでしょ♡」

処女は2時間  
クリトリスいじり続けられ  
潮ふくからね♡  
根本まで、僕のおちんちん  
ぶっ刺してあげるから、  
大人の近道の階段、  
天国まで登らせてあげるね♡」

久美子は地域で  
有名なおじさん  
サポ集団に参加をし、  
はじめての援助交際  
に挑戦したが、  
股をいじられて、  
おじさんのおちんぽを  
突っ込まれるだけで、  
3万円稼げるとい  
う事実がそこにあること  
に驚きを感じ、そして  
これこそが高校に  
いってやめたかったことだと  
改めて確信した。

行為中はカエルのように  
股を開いて  
意識を飛ばしていたら、  
あっという間に  
終わっていた。  
アフタートピルも貰ったし、  
股は痛かったけど、  
中〇生の自分には  
なかつた不思議な誇りと、  
満足感が残るものだった。







2回目のサポート  
久美子「う、うぐ、うぐ、  
あぐう、あぐう、ぐう」  
「あー！洗ってない  
ちんこで、女子校1年生の、  
固定フェラ、最高に  
気持ちいいー！ー！  
そうそう、口の中に  
たくさんカスが  
取れると思うけど  
白いシヨンペンと一緒に  
全部飲み込むんだからね。

久美子ちゃんは唾液を  
たくさん出して、  
おちんちんを舐めあげる  
だけでいいんだよ♡」  
久美子は、驚いて  
硬直してしまっていた。  
さらに、男性が  
自分の上にのっかり、  
久美子の頭を手で  
固定して、口のなかに  
無理やり押し込んで  
来たからである。

男は、喜んで興奮を  
あらわすかのように  
ベットのうえで  
バウンドしながら、  
股に久美子の顔を  
押し付けてきた。  
勃起した大人の男性器が  
久美子の小さな口に  
頬張らせるように  
侵入してきた。  
幸い、久美子は驚きの  
あまり、力が抜けて  
しまった状態であり、  
相手の指示に従うだけの  
状態であっていた。

そして指示どおり、  
舌の上にとっさり  
のかつてきたチンカスを  
栄養物だと教わり、  
飲み込むように強制された。  
腐乱臭がする食べ物、  
人間の尊厳を無視する  
ようなものであったが  
久美子は精液と一緒に、  
ごくごく飲み込んでいた。  
この後、口の中の異臭で  
久美子は、ご飯が  
三日間食べられなかった。



クキョククキョク

クキョククキョク



ハハハハ

クキョクキョ



フツフツ

ロクロー

フツフツ

フツフツ

フツフツ

フツフツ

フツフツ

フツフツ

2回目のサポート  
久美子「うぐ、うぐ、うぐ、  
あぐう、あぐう、ぐう」  
「あーおー洗ってない  
ちんこで、女子校1年生の、  
固定フェラ、最高に  
気持ちいいー！ー！ー！  
そうそう、口の中は  
たくさんカスが  
取れると思うけど  
白いシヨンペンと一緒に  
全部飲み込むんだからね。」

久美子ちゃんは唾液を  
たくさん出して、  
おちんちんを舐めあげる  
だけでいいんだよ♡」  
久美子は、驚いて  
硬直してしまっていた。  
さらに、男性が  
自分の上へののっかり、  
久美子の頭を手で  
固定して、口のなかに  
無理やり押し込んで  
来たからである。

男は、喜んで興奮を  
あらわすかのように  
ベットのうえで  
バウンドしながら、  
股に久美子の顔を  
押し付けてきた。  
勃起した大人の男性器が  
久美子の小さな口に  
頬張らせるように  
侵入してきた。  
幸い、久美子は驚きの  
あまり、力が抜けて  
しまった状態であり、  
相手の指示に従うだけの  
状態であった。



そして指示どおり、  
舌の上にとっさり  
のかつてきたチンカスを  
栄養物だと教わり、  
飲み込むように強制された。  
腐乱臭がする食べ物、  
人間の尊厳を無視する  
ようなものであったが  
久美子は精液と一緒に、  
ごくごく飲み込んでいた。  
この後、口の中の異臭で  
久美子は、ご飯が  
三日間食べられなかった。



3回目のサポート  
久美子「んっ、んっ、  
んっ、んっ」  
今度の相手は  
客は、本当に気持ち  
悪い相手だった。  
かなりきつかったが  
しかしホテル代、  
ビル代もちで、  
こんなことで、3万も  
稼げることに  
今更ながら驚き、  
我慢する価値は  
あると、宙を見つめ  
ながら考えていた。

男の話す内容はどーでも  
よかったが、久美子に  
襲う女の喜びには  
逆らいようもなかった。  
出し入れを  
繰り返されるたびに、  
久美子の頭のなかに  
目が飛び出そうになる  
くらい快感がはしり、  
最近まで中〇生だった  
脳には刺激が強すぎる  
脳内物質に  
頭がパンクしていた。

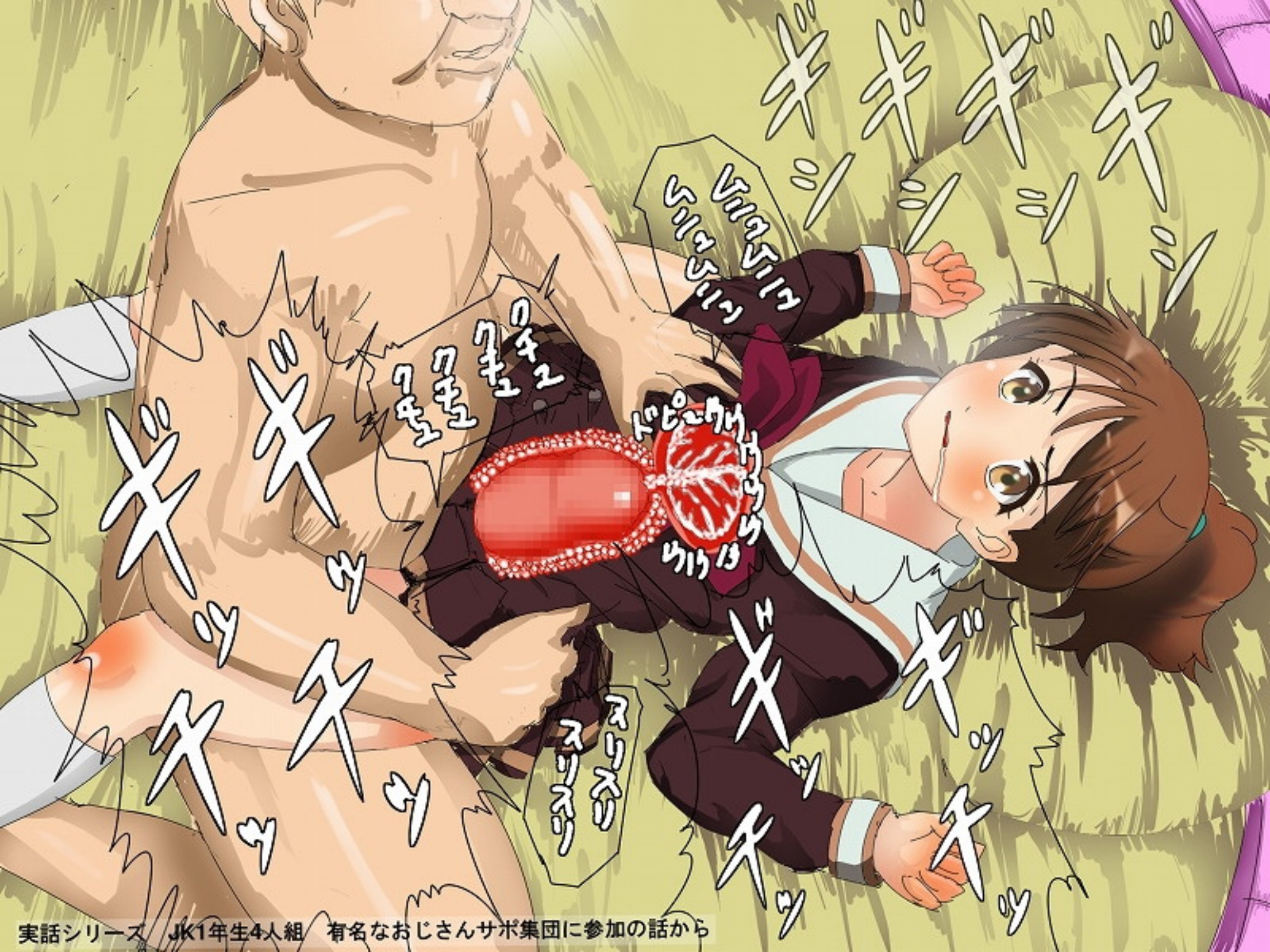
「この前まで中〇生かあ。  
その時にお互い、恋人で  
出会ったかったね♡  
娘の年もそのくらい  
なんだあ♡  
お父さんってよんでよね♡  
おじさんのほつきチンポから  
久美子ちゃんのぶにぶに  
まんこにピューと  
射精しちゃっていいよね♡  
自分の娘に中出ししてる  
みたいで、興奮するよね♡  
子供ができたなら、新しい娘の  
娘ができちゃうね♡」

そして久美子の膣は  
男のものを、がっしりと  
離さないように  
くわえ込み、  
足も挟みこむように  
自然と力が入った。  
親から教わらなかった、  
快感の感情の発見に、  
久美子の体は喜びにあ  
震えているのであった。





実話シリーズ JK1年生4人組 有名なおじさんサボ集団に参加の話から



実話シリーズ JK1年生4人組 有名なおじさんサボ集団に参加の話から

3回目のサポート  
久美子「んっ、んっ、  
んっ、んっ」  
今度の相手は  
客は、本当に気持ち  
悪い相手だった。  
かなりきつかったが  
しかしホテル代、  
ビール代もちで、  
こんなことで、3万も  
稼げることに  
今更ながら驚き、  
我慢する価値は  
あると、宙を見つめ  
ながら考えていた。

男の話す内容はどーでも  
よかったが、久美子に  
襲う女の喜びには  
逆らいようもなかった。  
出し入れを  
繰り返されるたびに、  
久美子の頭のなかに  
目が飛び出そうになる  
くらい快感がはしり、  
最近まで中〇生だった  
脳には刺激が強すぎる  
脳内物質に  
頭がパンクしていた。

「この前まで中〇生かあ。  
その時にお互い、恋人で  
出会いたかったね♡  
娘の年もそのくらい  
なんだあ♡  
お父さんってよんでよね♡  
おじさんのほつきチンポから  
久美子ちゃんのふにぶに  
まんこにビューと  
射精しちゃっていいよね  
自分の娘に中出ししてる  
みたいで興奮するよね♡  
子供ができたら、新しい娘の  
娘ができちゃうね♡」

そして久美子の膣は  
男のものを、がっしりと  
離さないように  
くわえ込み、  
足も挟みこむように  
自然と力が入った。  
親から教わらなかった、  
快感の感情の発見に、  
久美子の体は喜びにあ  
震えているのであった。



実話シリーズ JK1年生4人組 有名なおじさんサポ集団に参加の話から

5回目サポート  
久美子「うっ、くう、  
んっ、んっ、んっ」  
今日の援交、一日相手に  
すると7万くれる  
美味しい相手だった  
が油臭くて太って、醜く  
気持ち悪い男だった  
ので早く死んで欲しい  
と思った。

僕のおしりの穴も  
舐めてもらおうから、  
二人で赤ちゃんに  
なっていーぱい  
舐め合うところ  
撮影しようね♡

いくらこの男を  
気持ち悪く下に見ても  
大人と高〇生では  
生物の力の差により  
久美子に襲う快感には、  
なすべがなく、  
股からは、驚くべきほどの  
愛液が匂いととも  
流れ出してきていた。

途中で辞めたいと  
思う客だった。  
それでも、お金が  
もらえるということは  
魅力的で、そのため  
拒否するタイミングが  
ないまま、最後まで  
陵辱をされ続けた。

「んー赤ちゃんみたい  
でちゅねえ♡僕もこうい  
う体型でいると、兄弟の  
赤ちゃんみたいでちゅね  
僕がお兄ちゃんになって、  
体中舐めあげて♡  
あげるからね♡  
あとでおまんことおしりの  
穴も広げて撮影して、  
2時間舐めあげて  
あげるから♡

こういう変な客に  
相手にも、この後の  
舐め合うプレイも  
それがクセになって  
きているという感覚が  
自分が大人に感じ、  
久美子は自分自身には  
悪い気分ではなかった。





5回目サポート  
久美子「うっ、くう」  
んっ、んっ、んっ  
今日の援交、一日相手に  
すると7万くれる  
美味しい相手だった  
油臭くて太って醜く  
気持ち悪い男だった  
早く死んで欲しいと思った。

僕のおしりの穴も  
舐めてもらおうから  
二人で赤ちゃんに  
なっていーぱい  
舐め合うところ  
撮影しようね♡

いくらこの男を  
気持ち悪く下に見ても  
大人と高○生では  
生物の力の差により  
久美子に襲う快感には  
なすべがなく、  
股からは、驚くべきほどの  
愛液が匂いととも  
流れ出してきていた。

途中で辞めたいと  
思う客だった。  
それでも、お金が  
もらえるということは  
魅力的で、そのため  
拒否するタイミングが  
ないまま、最後まで  
陵辱をされ続けた。

「んー赤ちゃんみたい  
でちゅねえ♡僕もこうい  
体型でいると、兄弟の  
赤ちゃんみたいでちゅねー♡  
僕がお兄ちゃんになって、  
体中舐めあげて  
あげるからね♡  
あとでおまんことおしりの  
穴も広げて撮影して、  
2時間舐めあげて  
あげるから♡

こういう変な客に  
相手にもこの後の  
舐め合うプレイも  
それがクセになって  
きているという感覚が  
自分が大人に感じ、  
久美子は自分自身には  
悪い気分ではなかった。





実話シリーズ JK1年生4人組 有名なおじさんサポ集団に参加の話から

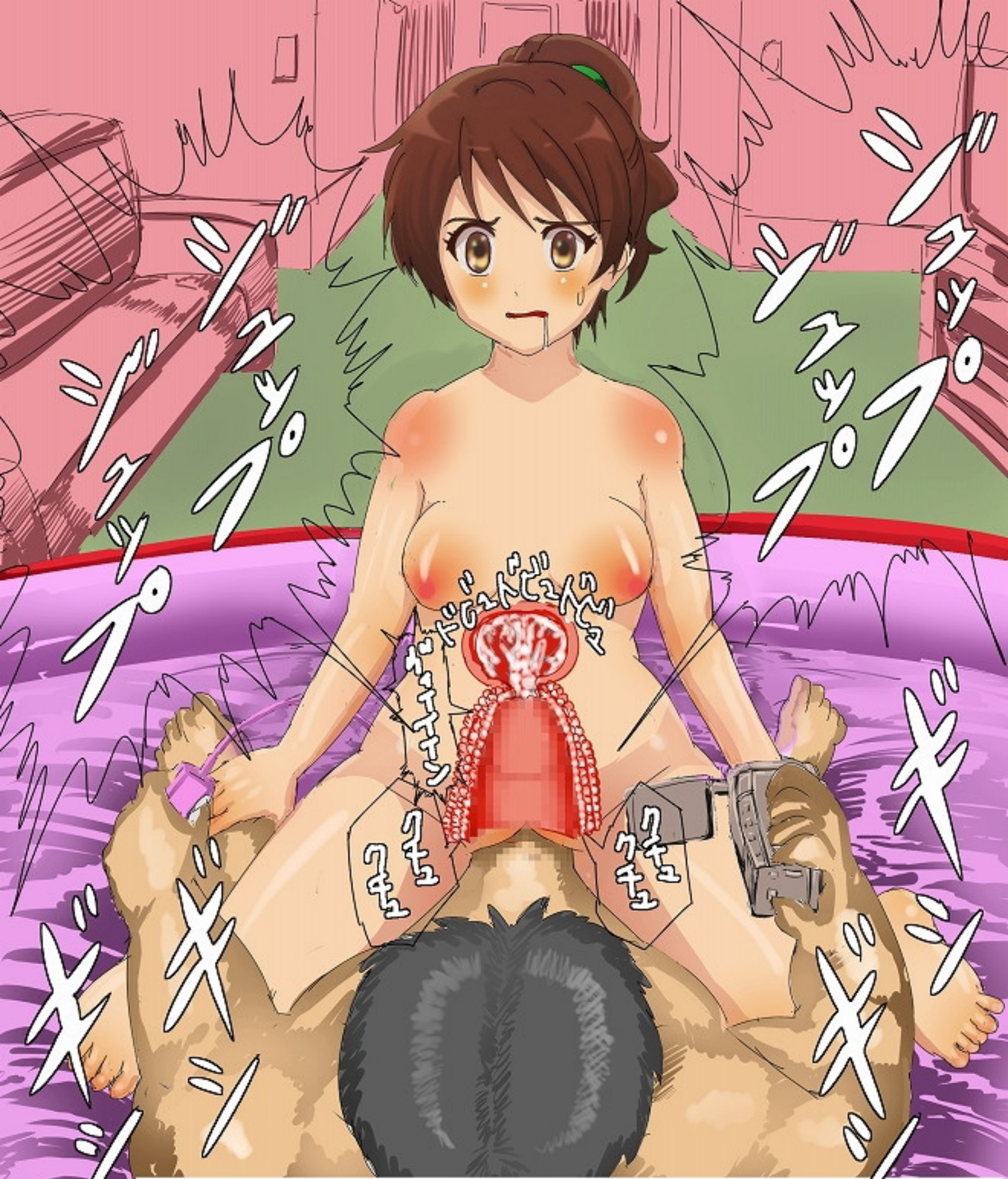
久美子「あっ、あっ、あっ、あっ」  
 今日、雰囲気は素敵な  
 おじさんが相手で  
 楽しい物になりそう  
 だった。久美子は、  
 おしりの穴にローターを  
 突っ込まれたまま、  
 騎乗位の体勢を  
 取るように言われた。

「ローター回すたびに、  
 おまんこがキュって  
 しまるね♡表情も  
 とってもいいよ♡  
 カメラでその瞬間が  
 映ると、とっても  
 かわいいから♡  
 君の表情みてるだけで  
 いきそうになるよ♡」

肛門から出る紐が、  
 久美子の異物感を表すもの  
 だったが、騎乗位によって、  
 自分が動けば動くほど  
 気持ちよくなる感覚に、  
 この肛門拡張は  
 悪いものではなかった。  
 久美子は、見知らぬ男性の  
 上に、体を預けながらも、  
 腰だけはホッピングして  
 動かし続け快感の伝達を  
 味わうのだった。



実話シリーズ JK1年生4人組 有名なおじさんサポ集団に参加の話から



実話シリーズ JK1年生4人組 有名なおじさんサポ集団に参加の話から

久美子「あっ、あっ、あっ、あっ、あっ」  
 今日、雲田さんが素敵なおじさんが相手でおもしろい物になりそうだった。久美子は、おしりの穴にローターを突っ込まれたまま、騎乗位の体勢を取るように言われた。

「ローター回すたびに、おまんこがキュってしまるね♡表情もとってもいいよ♡カメラでその瞬間が映ると、とってもかわいいから♡君の表情みてるだけでいきそうになるよ♡」

肛門から出る紐が、久美子の異物感を表すものだったが、騎乗位によって、自分が動けば動くほど、気持ちよくなる感覚に、この肛門拡張は、悪いものではなかった。久美子は、見知らぬ男性の上に、体を預けながらも、腰だけはホッピングして動かし続け快感の伝達を味わうのだった。



くみこ「どうですか？  
気持ちいいですか？」  
「君みたいな子を、  
好きなのは、もんだり、  
匂いを嗅いだり  
していいなんて、  
最高だねえ♡」

援交行為にすっかり慣れた  
少女は、いかにはやく  
セックス行為を済ますかを  
心得るようになっていた。  
ほどよく従順になるという、  
お金を援助して  
もらうための結論に  
行き着いたのである。

そしてなによりも  
リアルに大金が  
手に入るとい  
現実を十分に  
理解しているからこそ、  
今日も久美子は地域の  
おじさんサポ集団に  
体をさらけだして、  
穴を差し出すことに  
なんの疑問も  
湧かなかつた。

そして、中には  
とんでもない変態に  
めちやくちやされ  
フラッシュバックに  
残されることを  
久美子自身が求める  
ようになっていた。

今も、アナルにローターを  
入れられ、艶かしい唾液を  
絡めた唇の摩擦音が  
部屋に響き渡り、この後、  
様々な変態行為を  
強いられることを久美子は  
心待ちにしていた。



ギリッイン

74425747  
451042110

10745  
2020747







くみこ「どうですか？  
気持ちいいですか？」  
「君みたいな子を、  
好きなだけ、もんだり、  
匂いを嗅いだり  
していいなんて、  
最高だねえ♡」

援交行為にすっかり慣れた  
少女は、いかにやく  
セックス行為を済ますかを  
心得るようになっていた。  
ほどよく従順になるという、  
お金を援助して  
もらうための結論に  
行き着いたのである。

そしてなによりも  
リアルに大金が  
手に入るとい  
現実を十分に  
理解しているからこそ、  
今日も久美子は地域の  
おじさんサポ集団に  
体をさらけ出して、  
穴を差し出すことに  
なんの疑問も  
湧かなかった。

ギリッピン

そして、中には  
とんでもない変態に  
めちやくちやされ  
フラッシュバックに  
残されることを  
久美子自身が求める  
ようになっていた。

今も、アナルにローターを  
入れられ、艶かしい唾液を  
絡めた唇の摩擦音が  
部屋に響き渡り、この後、  
様々な変態行為を  
強いられることを久美子は  
心待ちにしていた。

トビタトビタトビタ

ニクニクニクニク

クニクニクニク  
クニクニクニク

クニクニクニク  
クニクニクニク

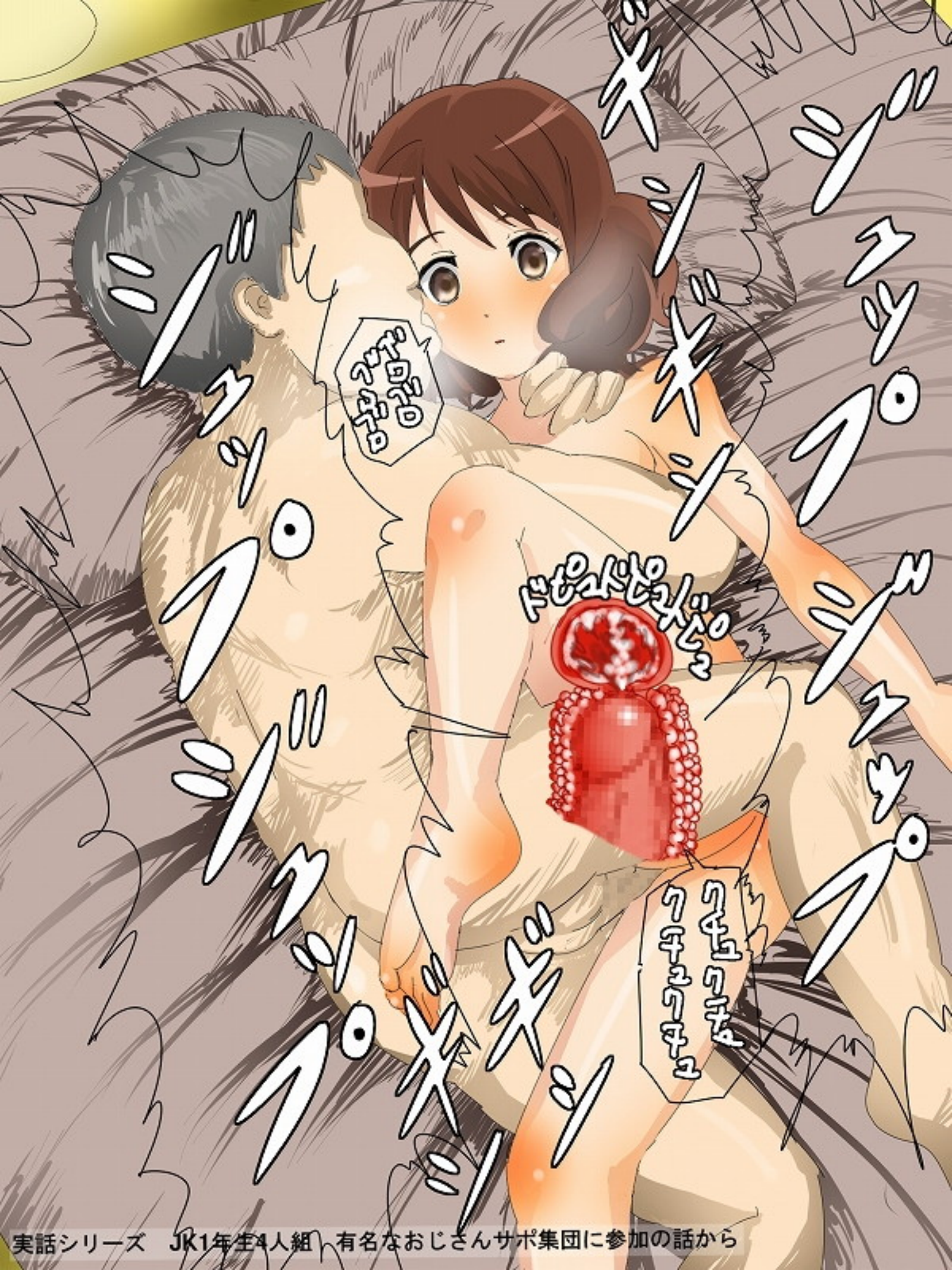


久美子は、顔面をなめられ、体中を抱きほぐされたが、こういう気持ちの悪い客を相手にするときは、意識を飛ばすのが、一番楽だと知っていた。

「はあはあ、くみこちゃん  
美味しいよお♡  
女子校生にお金を払うだけで  
こんないい匂いを  
嗅ぎ放題で、抱き放題  
なめ放題なんて、  
いい時代になったよねえ♡  
この穴に出し放題なんだよね。  
1年生だから大丈夫だよね」

まるで他人ごとのように、股に異物を出し入れされ、肉が肉にまわりつくそんな行為が1時間繰り返されるのだった。ただ、そこに久美子が求めていたライフスタイルの充実と喜びを感じるのであった。





久美子は、顔面をなめられ、体中を抱きほぐされたが、こういう気持ちの悪い客を相手にするときは、意識を飛ばすのが一番楽だと知っていた。

「はあはあ、くみこちゃん  
美味しいよお  
女子校生にお金を払うだけで  
こんないい匂いを  
嗅ぎ放題で、抱き放題  
なめ放題なんて、  
いい時代になったよねえ  
この穴に出し放題なんだよね。  
1年生だから大丈夫だよね」

まるで他人ごとのように、股に異物を出し入れされ、肉が肉にまわりつくそんな行為が1時間繰り返されるのだった。ただ、そこに久美子が求めていたライフスタイルの充実と喜びを感じるのであった。





久美子「んっ、どうですが？  
 気持ちいですか？」  
 今日はいつもより  
 お金の色がつくといいこと  
 久美子はノリノリだった。  
 もちろん撮影つきである。

騎乗位で自ら、  
 すっかりほぐされた  
 膣のなかに、  
 グジュグジュになった  
 ヒダをつかって、陰茎を  
 繰り返し出し入れをして  
 愛液で艶めかしく  
 手慣れた工程で  
 摩擦を加えていく。

ここにいる久美子は、  
 以前の表情はすでに  
 消失し、中〇生では、  
 みられなかった金を  
 稼ぐ感情の発育で  
 満たされた新しい顔に  
 なっていた。

思春期の女の子が  
 大人たちのサポによって  
 あっという間に  
 成長させてしまったのだ。  
 そして久美子自身が  
 高〇生でやりたいことの  
 望んだ未来だった。





久美子「んっ、どうですが？  
 気持ちいですか？」  
 今日はいっつもより  
 お金の色がつくというこ  
 久美子はノリノリだった。  
 もちろん撮影つきである。

騎乗位で自ら、  
 すっかりほぐされた  
 膣のなかに、  
 グジュグジュになった  
 ヒダをつかって、陰茎を  
 繰り返し出し入れをして  
 愛液で艶めかしく  
 手慣れた工程で  
 摩擦を加えていく。

ここにいる久美子は、  
 以前の表情はすでに  
 消失し、中〇生では、  
 みられなかった金を  
 稼ぐ感情の発育で  
 満たされた新しい顔に  
 なっていた。

思春期の女の子が  
 大人たちのサポによって  
 あっという間に  
 成長させてしまったのだ。  
 そして久美子自身が  
 高〇生でやりたいことの  
 望んだ未来だった。



サポート 数回目  
麗奈「あう、うっ、うっ、  
うっ」  
行為が始まって  
今日の麗奈は、見知らぬ  
男性との性行為に  
強く拒絶感を感じるような  
日だった。男を劣等と  
見てしまう日だった。

しかし麗奈の股からは  
湯気がたつかの勢いで、  
匂いと体液を発散していた。  
麗奈の体は、  
遺伝子を残すことを  
使命感を持っていて  
かのように、また同世代の  
男子にはいない  
大人を欲している  
繁殖遺伝に特化した  
端正な体であった。  
オスを食おうとする  
生まれつきの体だった。

そのため麗奈は  
自分でもおかしいと  
感じるほどの  
よくわからない  
あまりの快感に  
頭がパンクして、  
みずから股を開いて  
しまうのであった。

相手との行為を了承  
するかのうちに、  
股からは、ジュプジュプと  
耳に入ってくる音量で、  
愛液を無制限に流し  
つつけるのであった。  
雄が陰茎を抜いて  
しまわないように。  
そして援助交際を  
またやってしまうのだった。



実話シリーズ JK1年生4人組 有名なおじさんサポ集団に参加の話から





クオオオオオオ

ホウホウ  
ホウホウ

クオオオオオ  
クオオオオオ

サポート 数回目  
麗奈「あう、うっ、うっ、  
行為が始まって  
今日の麗奈は、見知らぬ  
男性との性行為に  
強く拒絶感を感じるような  
日だった。男を劣等と  
見てしまう日だった。

しかし麗奈の股からは  
湯気がたつかの勢いで、  
匂いと体液を発散していた。  
麗奈の体は、  
遺伝子を残すことを  
使命感を持っていて  
かのように、また同世代の  
男子にはいない  
大人を欲している  
繁殖遺伝に特化した  
端正な体であった。  
オスを食おうとする  
生まれつきの体だった。



そのため麗奈は  
自分でもおかしいと  
感じるほどの  
よくわからない  
あまりの快感に  
頭がパンクして、  
みずから股を開いて  
しまうのであった。

相手との行為を了承  
するかのようには、  
股からは、ジュブジュブと  
耳に入ってくる音量で、  
愛液を無制限に流し  
つつけるのであった。  
雄が陰茎を抜いて  
しまわないように。  
そして援助交際を  
またやってしまうのだった。